

鹿児島市のタンポポ類の分布

木 戸 伸 栄*

Distribution of *Taraxacum* in Kagoshima City

Nobuyoshi KIDO

都市化がすすむにつれて、自然環境の変化が動植物にも多くの影響を与えている実態が明らかにされつつある。タンポポ類もその例外ではなく、環境の変化とともに種類の変遷がみられる。例えば、「大阪府下のタンポポ類の分布」(堀田満 1975)によると、大阪府下では、従来のカンサイタンポポに代わりセイヨウタンポポやアカミタンポポが侵入してきている。

タンポポ類の分布は、このように環境の自然度をみるうえで好材料のひとつといえる。そこで、鹿児島の自然はどのような状態にあるのか、また、今後どのように変化していくのかタンポポの分布をとおして研究をすすめていきたい。

鹿児島県では、「鹿児島県普通植物目録」(内藤喬 1925)にシロバナタンポポとタンポポが記録されたのが最初である。その後、県内のタンポポ類の種と採集地については、初島住彦(1978)が「鹿児島県植物目録」で発表している。それによると、鹿児島県ではタンポポを除く5種がみられる。これらのほかに、迫 静男採集の1種がある。

これらタンポポ類にどのような分布がみられるのか県内全域にわたって調査したいが、今回は鹿児島市内のタンポポ類の分布にとどめることとした。

この調査をするにあたり指導をしていただいた鹿児島大学名誉教授初島住彦先生、同大学講師迫 静男先生、同大学教授新敏夫先生にお礼申し上げる。

1. 調査地域および方法

鹿児島市の主要道路および河畔を中心に調査し、路地裏や周辺部の山地・団地については今後の課題とした。調査経路は第1図の中に点線で示す。自転車や自動車でゆっくり進みながら、道の両側5~6m程度のところを調査した。種類・採集場所を2万5千分の1の地図にプロットした。各地で得られたサンプルは腊葉標本にして県立博物館に保管することにした。

2. 1981年の調査日および主なコース

(5月1日は自動車使用, 他は自転車による。)

4月13日 10:00~15:00 永田川沿往復, 山田, 星ヶ峰, 2号用地, 3号用地

4月20日 9:00~16:00 甲突川の右岸と左岸, 伊敷

4月23日 13:00~17:30 鴨池, 荒田, 与次郎ヶ浜

4月27日 8:00~17:00 (午前)上町方面, (午後)原良, 武, 新川沿

5月1日 13:00~19:00 吉野・緑ヶ丘, 川上, 原良団地, 坂元団地

5月3日 8:30~16:00 谷山~鴨池(国道, 県道, 産業道路沿), 紫原, 脇田川沿

3. 結果

(1)鹿児島市でみられるタンポポ類



Taraxacum laevigatum

DC.

アカミタンポポ

1981年5月1日

鹿児島市城山町



Taraxacum officinale

WEBER

セイヨウタンポポ

1981年5月1日

鹿児島市西田町



3

Taraxacum formosanum

KITAM.

タカサゴタンポポ

1981年4月29日

鹿児島市脇田町



4

Taraxacum albidum










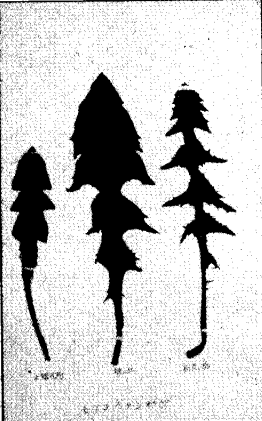
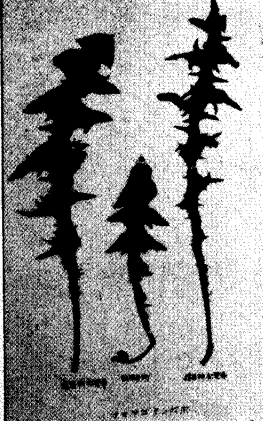


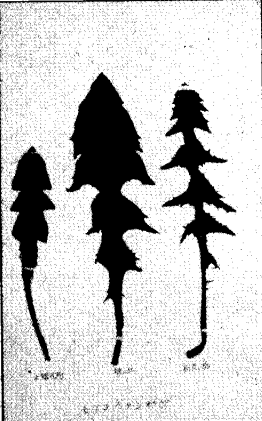
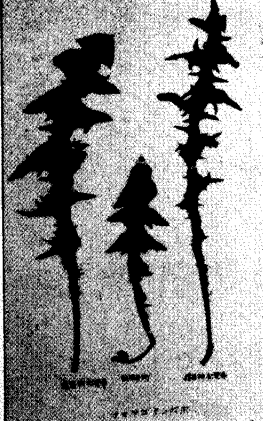


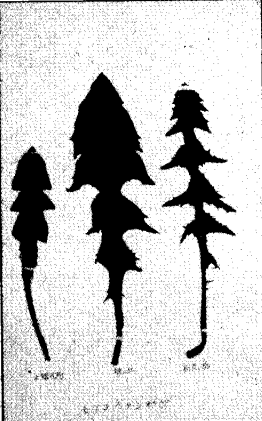
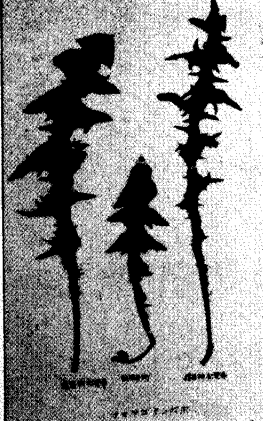


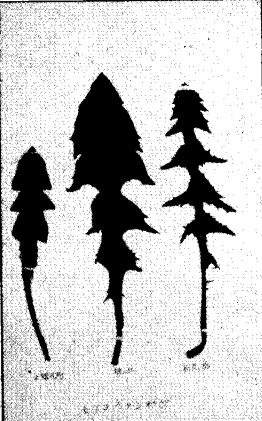
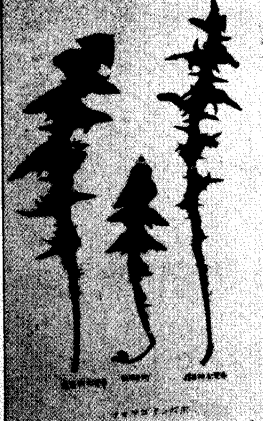

DAHLST.

シロバナタンポポ

1981年4月25日

鹿児島市清水町

木戸伸栄

		アカミタンポポ	セイヨウタンポポ	タカサゴタンポポ	シロバナタンポポ
花	形				
	色	黄色	黄色	黄色	白色
	大きさ	2~3cm	4~5cm	3.5~4.5cm	3.5~4.5cm
	総包	<ul style="list-style-type: none"> •内片は直立する •外片は下方にそり返る •角状突起が少し出る 	<ul style="list-style-type: none"> •内片は直立する •外片は下方にそり返る 	<ul style="list-style-type: none"> •内片は直立する •外片は角状突起が出る 	<ul style="list-style-type: none"> •外片は短くやや開出する •角状突起が出る
種子					
	1mm 暗赤色 赤紫色	褐色	褐色	灰褐色	
葉					
					
					
					

4. 考察

タンポポ属は世界の温帯・亜寒帯に分布し、とくに北半球に多く世界に数百種ある。杉本順一(1978)「日本草本植物総検索誌」によると、日本では74種のタンポポの記録がある。鹿児島県には、6種のタンポポの分布が知られている。「鹿児島県普通植物目録」(前出)によると、タンポポとシロバナタンポポが記録されているが、当時シロバナタンポポ以外は全部タンポポと称していたのでタンポポが現在のどの種にあたるか不明である。「鹿児島県植物目録」(前出)によると、シロバナタンポポ *Taraxacum albidum* (県本土、種子島、屋久島、喜界島)、タカサゴタンポポ *T. formosanum* (鹿児島、奄美大島)、カンサイタンポポ *T. japonicum* (喜界島)、アカミタンポポ *T. laerigatum* (屋久島)、セイヨウタンポポ *T. officinale* (鹿児島)の5種が記録されている。この他、県立博物館にはツクシタンポポ *T. kiusianum* の腊葉標本(西之表, March 18, 1968, 迫 静男)がある。

今回の調査で、鹿児島市にはシロバナタンポポ、タカサゴタンポポ、アカミタンポポ、セイヨウタンポポの4種がみられた。シロバナタンポポは、「鹿児島県普通植物目録」(前出)で記録があるが、今回の調査ではそれほど分布の広がりがなく甲突川より北の方に多くみられた。アカミタンポポはもっとも広範囲に分布しており早くから市街化がすすんだところほど多くみられる。このことは堀田(1975)が発表している大阪の場合と同じである。セイヨウタンポポやタカサゴタンポポが川岸などの水や土に恵まれた場所に生育しているのに対して、アカミタンポポは舗装道路やブロックべい、石垣の隅に多くみられる傾向がある。タンポポ類がみられるのは旧市街地で、南部(谷山地区)や北部(吉野地区)、西部の丘陵地にはあまりみられない。また今回の調査では、与次郎ヶ浜(1972年埋立)一号用地、二号用地、三号用地(1971年埋立)、祇園之洲(1977年埋立)の埋立地にはタンポポ類はみられなかった。緑ヶ丘と星ヶ峰団地2区でセイヨウタンポポがみられたが、この地図に記すことができなかった。

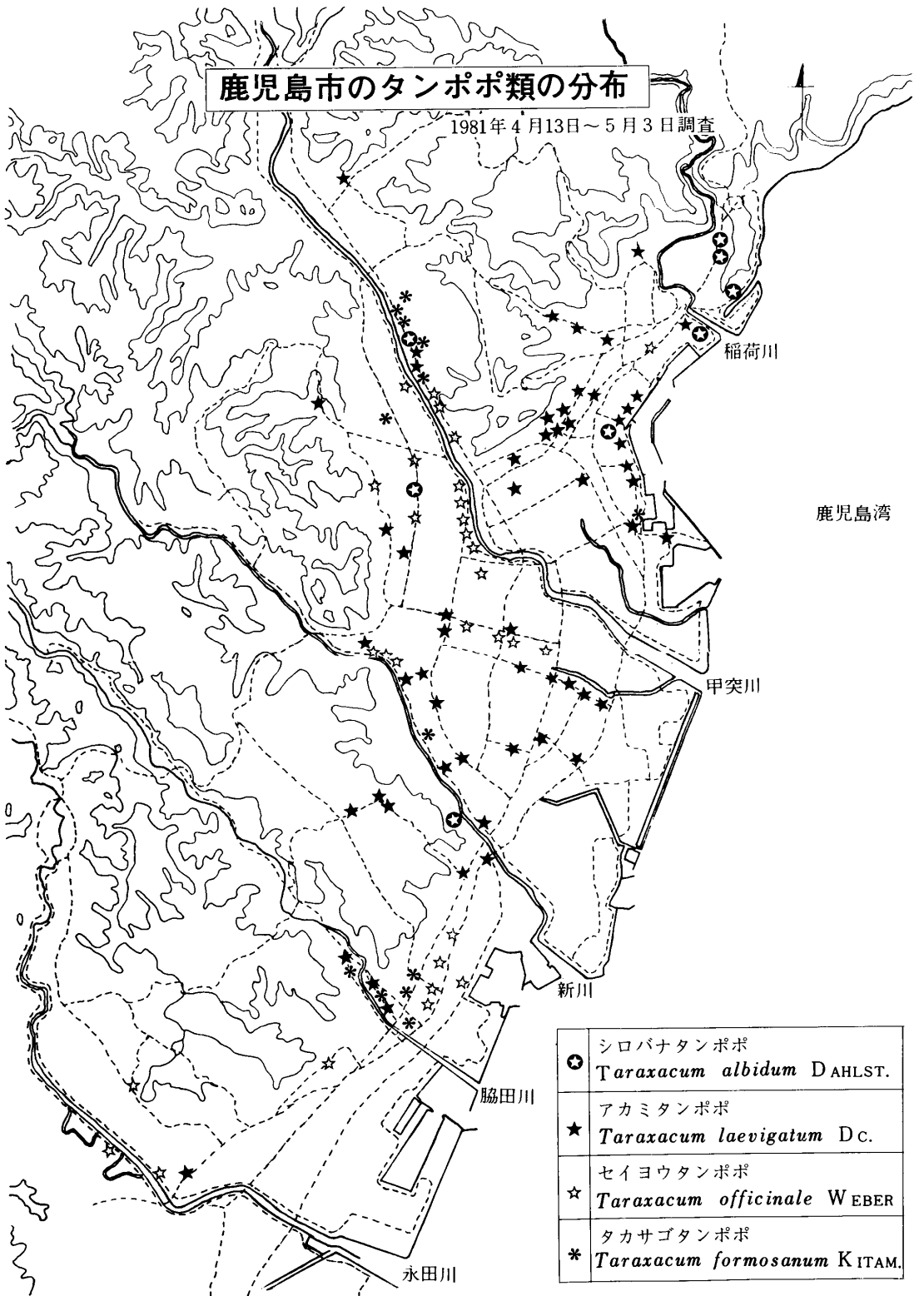
この調査結果が今後の調査資料になれば幸いである。

5. 要約

- (1) 昭和56年(1981年)4月13日から5月3日までの調査によると、鹿児島市に分布するタンポポ類は、シロバナタンポポ *Taraxacum albidum*, アカミタンポポ *T. laevigatum*, セイヨウタンポポ *T. officinale*, タカサゴタンポポ *T. formosanum* である。
- (2) 鹿児島市では、アカミタンポポが最も繁殖しており、早くから市街化がすすんだところほど多くみられる。
- (3) セイヨウタンポポは、甲突川より南の方に多くみられる。
- (4) シロバナタンポポは、甲突川より北の方に多くみられる。
- (5) タンポポ類は旧市街地でみられるが、北部(吉野地区)や南部(谷山地区)、西部の丘陵地ではあまりみられない。
- (6) 与次郎ヶ浜(1972年埋立)、一号用地・二号用地・三号用地(1971年埋立)、祇園之洲(1977年埋立)の埋立地には、この調査ではタンポポ類はみられなかった。

鹿児島市のタンポポ類の分布

1981年4月13日～5月3日調査



●	シロバナタンポポ <i>Taraxacum albidum</i> DAHLST.
★	アカミタンポポ <i>Taraxacum laevigatum</i> DC.
☆	セイヨウタンポポ <i>Taraxacum officinale</i> WEBER
*	タカサゴタンポポ <i>Taraxacum formosanum</i> KITAM.

----- 調査コース

6. 参考文献

- | | | | | | | |
|------|-------|------|----------------|--------------------------|----------|-----|
| (1) | 大井次三郎 | 1975 | 日本植物誌 顕花篇 | 1582 pp | 至文堂 | 東京 |
| (2) | 奥山春季 | 1977 | 寺崎日本植物図譜 | 1181 pp | 平凡社 | 東京 |
| (3) | 杉本順一 | 1978 | 日本草本植物総検索 双子葉編 | 871 pp | 井上書店 | 東京 |
| (4) | 土井美夫 | 1926 | 薩摩植物誌 | 1-10 pp | 自費出版 | 鹿児島 |
| (5) | 長田武正 | 1976 | 原色日本帰化植物図鑑 | 425 pp | 保育社 | 大阪 |
| (6) | 内藤 喬 | 1925 | 鹿児島県普通植物目録 | 1-107 p | 鹿児島高農論文集 | |
| (7) | 初島住彦 | 1978 | 鹿児島県植物目録 | 234 pp | 鹿児島植物同好会 | 鹿児島 |
| (8) | 堀田 満 | 1975 | 大阪府下のタンポポ類の分布 | Nature Study, 21(4): 2-5 | | |
| (9) | 前川文夫外 | 1962 | 牧野新日本植物図鑑 | 1060 pp | 北隆館 | 東京 |
| (10) | 森田竜義 | 1978 | カンサイタンポポ雑記 | Nature Study, 24(3): 2-7 | | |